

異文化理解と日本事情教育

——異文化接触における自己変容の気づきをとおして学ぶ——

徳井厚子

- I はじめに
- II 実践報告その1「日本人のイメージ」に関するアンケートをとりいれた授業
- III 実践報告その2「結婚」と「仕事」に関するインタビューをとりいれた授業
- IV 学生のレポート『日本に来る前・来てからの私』
- V 「異文化接触と自己変容の気づき」と日本事情教育の役割—まとめにかえて—

I はじめに

「日本事情はいったいどんな科目だろう?」「いったいどんなことを教えればよいのだろうか?」という声をよく聞く。一口に「日本事情」といっても、国内、海外で教える場合、対象、レベルにより、その役割は異なってくるといえる。

日本で学ぶ留学生にとって、日本での様々な人々との出会い、経験は同時に「異文化における自己との出会い」でもある。「異文化という状況における自己」と出会い、そして「自己」の変容に自ら「気づいて」いくことは、「留学」という体験の中で重要なことではないかと思う。筆者の「日本事情（日本の文化1）」のクラスでは、このような「異文化接触における自己変容への気づき」を目的として、アンケート、インタビュー、ディスカッション等を取りいれながら授業を行っている。以下ではその実践報告をおこない、「日本事情」のひとつのありかたの可能性をさぐってみることとする。

なお、本稿で報告する授業「日本事情（日本の文化1）」は半期開講のものであり、対象は学部1年生の留学生である。

II 実践報告その1「日本人のイメージ」に関するアンケートをとりいれた授業

1 日本人のステレオタイプの変化に関するアンケートの試み

わたしたちは、日常生活の中で「ステレオタイプ」という概念を知らず知らずのうちに用いている。Deaux&Wrightsmen (1984)によれば、ステレオタイプについて、「私たちは、生きていく上での日常生活での経験、親や学校から教わったこと、テレビや新聞で見聞きしたこと等、さまざまな経験をとおして自分の頭の中に幾つものカテゴリーを作っていく。こうして作られ、記憶の奥深くに形成されるカテゴリー（スキーマ）の一種をよぶ」としている。また、Gudykunst&Nishida (1994)は、“stereotypes are the mental pictures individuals have of a group people.”とし、さらに“stereotypes creates expectations about

how people in the category will behave.”としている。

ステレオタイプは否定的な場合、偏見や差別と結び付く場合もあるが、Gudykunst&Nishida ののべるように、他の文化に対する「予測」を行うための基準ともなる。日本で学ぶ留学生にとって、「日本人のステレオタイプがどのように形成されていったか」「そしてそれはどのように自己のなかで変容していったか」を知ることは「異文化接触における自己の変容」を知る上で重要であろう。(注1)

そこで、「日本事情」のクラスでは、この「異文化接触における自己変容」への「気づき」の第一歩として、「日本人のステレオタイプが自分自身の中でどのように形成されていったか」についてアンケートを実施し、その結果をもとにクラス内でディスカッションを行った。なお、授業の目的はアンケートの結果そのものをだすことでなく、アンケートを「異文化接触における自己変容の気づき」のきっかけとすることにある。

2 アンケートの実施

「日本事情」のクラスでは、まず、「日本人のステレオタイプ」がどのように形成されていったかを「日本に来る前」と「日本に来てから」に分けてアンケートをおこなった。

この段階では、学習者自身がアンケートを行うことによって「日本に来る前」「日本に来てから」の自分自身を振り返り、どのように「日本人のステレオタイプ」が変わったのか、ということの考察を通じどのように「日本人を見る」「自己」が「変容」したのか、また、その要因となったものは何か、ということ考察することを目的としている。

鐘(1993)は、自己を「見る自分」と「見られる自分」とし、「見られる自分」とは「意識する自分」であり、「見る自分」とは「見られる自分」を客観的に観察する「もう一人の自分」である、とした。ここで述べるアンケートは、学習者が「見る自分」すなわち観察者の立場にたつことによって、「来日前と後の日本を見る自分」の変化に気づくことを目的としている。

質問項目は以下の通りである。

- 1 「日本人について、その特徴、印象など、思ったことをかいてください」

日本に来る前

日本に来てから

- 2 「日本人は…である」と思っていたことが、実際日本にきて変わったことはありますか？それはどんなことですか？どんな時でしたか？

アンケートの結果は、「資料1」の通りである。なお、学習者の国籍および滞日年数は次の通りである。

国籍 中国、台湾、マレーシア(華僑)、スリランカ、韓国、ベトナム、香港

滞日年数 2年半 8人 3年半 4人

3 授業での討論

次にアンケートの結果を、次のクラスで報告し、クラス内で討論をおこなった。これは、アンケートの結果を他人と共有し、討論することで学習者が「自分の持っている日本人のス

テレオタイプ」を他の学習者と比較し相対化するということを目的としている。

「自分自身のもつ日本人のステレオタイプ」が絶対的である、と考えることは危険である。ほかの留学生の場合はどのようなステレオタイプをもっているのかということに気づき、相対化していくことは大切であろう。自分自身からのみの一方的な見方でなく、他人の見方も視野にいれた「複眼的」な見方を身に付けていくことは重要である。

アンケートおよび討論の結果は次のとおりである。

まず、日本人のステレオタイプの形成に影響を及ぼした事柄や人については、以下のようなことがいえた。当然ながら、個人差もみられることを付記しておきたい。

<日本に来る前>

海外旅行をする日本人観光客／母国の映画、ドラマにでてくる日本人／母国での日本語学校の先生／教科書（下駄、傘など）／日系企業につとめる人／日本に行ったことのある家族、友人の話／カレンダーにでてくる着物すがたの日本人女性

<日本に来てから>

来日当初 道を教えてくれた人、店員など

1年後 知り合い、友人など、身近な人、（アルバイト先で知り合った人など）

日本人のステレオタイプの変化についてあげられた意見をまとめると、次のようになる。

①～⑤については、ほとんどの学生が同意した意見である。ステレオタイプの変化には、「言語を習得しているか」「していないか」ということが大きな要因になっている。

- ① 日本に来る前は、当然のことであるが、「本」や「テレビ」「知り合い」など、間接的な情報が主になっているが、日本に来た後は、自分自身の直接体験が主になって日本人のステレオタイプが形成されている。
- ② 日本に来る前の日本人のイメージは、「伝統的な姿」が強調されている場合が多い。カレンダーや教科書の挿絵などの影響が大きい。
- ③ 日本に来た後の印象の変化は、日本語を習得している場合としていない場合とで、差がある。

日本語を習得していない場合、非言語的要素（ジェスチャーなど）が日本人のステレオタイプを形成する主な要因となっているが、習得後は、日本人とより深い接触をするようになり、言語的要素が加わってくる。さらに、滞日日数が増えるにしたがって人間関係や考え方等、内面的なものが主な要因となってくる。

- ④ 日本語を習得した後の方がまわりの状況の観察がこまやかになってくる。

しかし、「日本人のステレオタイプの変化」は全員が必ずしも同じではなく、⑤、⑥のように全く正反対の変化がおこっている場合もみられた。⑤の場合は正反対というよりは、観点が異なっている、という方が適切であろう。Aさんの場合はカテゴリー化がさらに細かくなっていったケースであり、Bさんの場合は適応していったケース、という観点からとらえることができよう。⑥の場合は、「日本人のステレオタイプ」が母国で最初から形

成されていなかったケースと形成されていたケースであり、対照的であるといえよう。

- ⑤ Aさん（中国）：初めは日本人も韓国人も中国人も同じようにみえたが、だんだん区別ができるようになった。

Bさん（韓国）：最初は自分自身と日本人との違いを大きく感じていたが、だんだんその差を感じなくなってきた。

- ⑥ Cさん（中国）：来日前は「日本人のステレオタイプ」はなかったが、日本での滞在年数が増えるにしたがって「日本人の曖昧さ」を感じ、「ステレオタイプ」が形成されるようになってきた。

Dさん（韓国）：来日前に「日本の否定的なイメージ」が強く、自分の中である種の「ステレオタイプ」が作られていたが、来日後、それが日本人とつきあうのに障害になっていることに気付いた。

また、次のケースは、同じ「行為」や「言語」に対してプラスイメージでうけとめた場合とマイナスイメージとしてうけとめた場合に分かれたケースである。同じひとつの行為や言葉に対しても、うけとめかたによっては正反対になってしまう。

- ⑦—「また、遊びにきてくださいね。」について—

Eさん：（中国）日本人は表裏があって信用できない。

Fさん：（中国）相手をおもいやる言葉である。

Gさん：（マレーシア）心のこまやかさを感じる。

- ⑧—若者がオープンになっていることについて—

Hさん：（中国）表裏がなく、良い。

Iさん：（マレーシア）良くないことである。

Ⅲ 実践報告その2 「結婚」と「仕事」に関する インタビューをとりいれた授業

1 日本人へのインタビューの試み

アンケートおよび考察の後、授業では実際に「日本人のステレオタイプ」について、「仕事を選ぶ条件」と「結婚相手を選ぶ条件」を例に、日本人へのインタビューを行った。まず、授業を受けている留学生を対象に、(1)のアンケートをおこなった。これは、「仕事を選ぶ条件」と「結婚相手を選ぶ条件」について留学生が自分自身について回答するものと、日本人の回答を予想して答えるものである。次に、実際に教室外活動として日本人へのインタビューを行った。日本人へのインタビューは次の1、2の2)の質問を除いたものである。そして、インタビューのあと、「留学生の回答」「留学生による日本人の回答予想」「日本人の回答」をまとめたものを配布した。(資料2)

これは、あらかじめ留学生が予想した日本人の回答が、実際の日本人へのインタビューの結果と同じであるか、あるいはズレがあるかどうか実際のインタビューをとおして経験するためにおこなっている。自分自身のもつ「日本人のステレオタイプ」を、実際の日本人の回答と比較することによって、その相違に気付くことは、大切であろう。「ステレオタイプを

とおして日本人をみる」のではなく、自分自身の「目」で直接体験することの重要性に気づくことは大切であると思われる。

なお、今回インタビューする人は各自ひとりずつにしたが、さらに増やす方がデータの信頼性という観点からも適当ではないかと思う。

質問

(1)

1 結婚相手の条件について

- 1) あなたにとって結婚相手の条件は何ですか? 大切な順に3つあげてください。
- 2) <予想>あなたは、日本人が結婚相手の条件として何をあげると思いますか? 3つあげてください。

2 仕事を選ぶ条件について

- 1) あなたにとって仕事を選ぶ時の条件は何ですか? 大切な順に3つあげてください。
- 2) <予想>あなたは日本人が仕事を選ぶ時の条件として何をあげると思いますか?

2 授業での討論から

インタビューの結果、まとめたもの(資料2)を配布し、教室内で自由討論を行った。討論は主に次の観点から行った。1) 自分自身の「日本人の予想」の回答には、どのような経験が影響を与えたと思うか。2) 自分自身の予想と日本人の回答は同じだったか。

資料の中で、ほとんどの学生が最も興味を示したのは、「日本人のお金に対する執着」というイメージであった。実際、留学生による日本人の回答予想の中で、「女性が男性に求めている結婚の条件」として「金持ち」がトップであり、また、「仕事を選ぶ条件」では「給料」がトップであったことから伺われる。(しかし、韓国の学生のように、反対の印象をもったケースもみられた。) 以下はディスカッションの中であげられた意見である。

1 「日本人の回答予想」に影響を与えた経験は

<日本人のお金に対する執着のイメージについて>

Jさん：(マレーシア) 東京に住んでいた時、電車の中での高校生の会話から。(贅沢な遊びの話をしている人が多かった。) / 駅での立ち話から。(どんな料理を食べるかなどという会話をしている。)

Kさん：(中国) 一緒にアルバイトをしている日本人から。(お金がたまるとすぐやめていく)

Lさん(香港) 自分の国にくる日本人観光客から(買い物ばかりする。)

Mさん(マレーシア) テレビのドラマにでてくる日本人から。

Nさん(韓国) 自分の国の方が(女性が結婚相手を選ぶ時) お金や学歴を重視するので、日本人がお金に対して執着をもっているようには思われなかった。

<仕事を選ぶ条件で『楽』と予想した事について>

Oさん(中国) 一緒に大学で授業を受けている日本人学生をみると「楽に」単位をとること

しか考えていないようにみえるから。

2) 予想した回答と実際の結果の相違について（日本人について）

Pさん（中国）「仕事の条件」に対する日本人の回答は「人間関係」をもっと重視すると思っていた。「日本人論」などで「日本人は人間関係を重視する」とよくいわれているので。でも、実際のインタビューでは「人間関係」はあまり挙げられていなかったのが驚いた。

今回は小規模のインタビュー調査だったため、今回の結果は必ずしも「平均的日本人学生」の回答に近いとはいえない点も多いのではないかと思う。しかし、「どの様に日本人のステレオタイプが形成されていったか」「その形成に影響を与える経験はどのようなものか」という観点から討論し、自分自身の経験を振り返っていくことは「異文化における自己の変容」を客観的にとらえる上で大切なことではないかと思う。授業の目的はインタビューの結果を出す事ではなく、インタビューそのものを体験し、討論することにある。討論から、「日本人のステレオタイプの形成」に影響を与える日本人は、「知り合い」だけではなく、「知り合いでない人」も多いことが伺われた。電車の中で近くに居た人やドラマの登場人物等、直接、間接に接する多くの人々が留学生の「日本人のステレオタイプ」の形成に影響を与えている、といえよう。また、Pさんのケースのように日本人論の影響で「日本人の特徴」が強調されて「先入観」で「ステレオタイプ」を形成してしまっているケースもみられた。インタビューや討論をとおしてこのようなことに気づくことも大切であろう。

IV 学生のレポート『日本に来る前・来てからのわたし』

授業では、最後に『日本に来る前・来てからのわたし』という題でレポートを書かせている。これは、アンケートやインタビュー調査、クラス内でのディスカッションをとおして考えてきたこと一すなわち『日本』という『異文化』と接触した「自己」がどのように変容していったのかを客観的にふりかえり、自分なりに表現することを目的としている。

以下は学生レポートの一部である。

* レポート 1（韓国）

小学校の頃読んだ“世界偉人伝”の中では、ノーベル賞をうけた日本人がたくさんいた。私は韓国人はどうしてひとりもないのかと残念に思った。そして日本がアジアの国として世界一の経済大国になってうれしいと思いながらどうしてと思った。

ところがわたしが日本にきてなるほどとわかったことや残念だと思ふことがいっぱいできてきた。日本人はまずなにより責任感が強いし、自分に対してもいろいろな面でまじめで純粹だと思ふ。だが性についてはおかしいと思ふところがたくさんある。日本にきてはじめてTV番組をみるとおどろくことばかり性に関して日本人がもっている感念（ママ）はうつくしくないとおもわれた。それはいつから、どこから由来したものか本当に私がもっていた日本とはちがった。その後大学にはいってみるとへんな日本人はいない。ほとんどまじめでもとももっていたイメージとちかいと思ふ。そして日本へきてわかったのは日本は宗教がめちゃくちゃだということだ。仏教だとおもっていたのにいろいろな迷信をしんじているのに

気がついてわたしのもっていたイメージとまたちがったと思った。そして自殺率が高い。ある友達の話によるとそれを日本人は美学だとおもう人もいるそうだ。なんとか日本人のそういう気持ちはわかるような気がするけれどほんとうにそれは残念なことである。私が東京にいる時電車で自殺をする人が一年のうち何回もあってほんとうにかなしかった。

* レポート 2 (中国)

(略)

来日前の日本のイメージは、経済大国の日本に暮らしている日本人は皆金持ちで豊かな生活をしている、だった。確かにものがあふれている日本では、お金さえあれば欲しいものは何でも手に入るから物質的に豊かな生活を感じることはまず問題ないといえる。しかし、目で見えない精神的な面では、日本はまだまだ乏しいとわたしはそうとらざるを得ない。競争が激しい日本社会で生き残るために人々は自分のことしか目を向けない。世の中では人間はいっぱいいるけれど心の通じあえる相手がなかなか見つからないことがわかっていても私たちに人と人との「直接的な触れ合い」という大切なコミュニケーションを無視しつつある一方、相手と連絡するだけの先進的な通信手段に頼り過ぎるのではないかという気がする。大都会で隣同志なのに顔さえ見知らぬままというケースとか夫婦が老後に離婚する確率が高くなるという現象とか、現在話題になっている学生間のいじめなどの社会問題の原因はそもそも精神面にあると思う。気がつかないうちに我々は今まで誇りをもって築いてきた物質的な豊かさを維持するために、貴重な心の触れ合いを失って孤独な社会を作り出したのではなからうか。そう思えば何かさびしくなるばかりである。(略)

* レポート 3 (中国)

日本にきてからの私といえば中国における私と比べたら、かなり違くと自分自身で深く感じている。なにが違うかというとならず、日本人のイメージが変わりつつある。中国では私は日本人がけちだといわれることをいつも気にしていた。しかし、日本にきてから日本人とつきあい、国際交流をしながらこのイメージがかわってきた。(中略)もとは感じていなかった日本人のやさしさにはだんだん気がついてきた。一番感じたのは東京に住んでいたときである。そのころ私は東京についたばかりで日本語が話せないし、道をおぼえられない。ある日、アパートを探しに行ったと中、道に迷ってどうしようもなかった。困った時一人の学生らしい人になってその結果その人は私をつれて家まで送ってくれた。大変な時間がかかったのを今でも記憶している。本当にありがたい気持ちがでた。名前もおぼえていなかったのに。このことから日本人のやさしさは深く印象に持ち始めたのである。

(略)

* レポート 4 (中国)

日本にきてもう3年になった。2度帰国したが、毎回、友達や親戚に“おまえ、かわったな”といわれた。“え？ どういうこと？”ときいたら、“なんとなく、雰囲気や性格等、妙にかわった”といってくれた。妙にかわったという言い方は本当に面白く思われるが、いっているのは自分のことだから、なんだか不思議だなと思って自分をよくみなおさなくちゃという気がした。

日本にきて4年目であるが短い人生に対してこのままあの長さでわたしにとって大変重要な人生の転換期であり、いうこともない。とても複雑な気持ちで充実している留学生活を送っているからだ。複雑な気持ちというのは、苦しみの中で楽しくやっているだけでない。日本にいる時間が長ければ長いほど、自分に対して日本人に対する認識が深まって行くともにもっと複雑な気持ちになってしまった。

日本に来る前、日本に対する印象といえば、伝統的なイメージがよかった。子供の頃、カレンダーや雑誌などからうつつくしい庭園風景、着物を着ているきれいな女性にあこがれていた。大学で会計の勉強のため、日本人のイメージがどんどんかわっていった。やはり経済大国といわれる日本はさすがに中国の大学の先生たちの経済パターンのひとつとして唱えていたから。急ピッチなスピードで経済が発展し、現代文明の夢を達成してきた。こどもの夢とおとなの認識を一緒にすると日本に対するイメージが変わってきた。伝統と現代文明とは宿命的にとけあっていた。

日本に対するイメージは映画の影響が強かった。戦争の映画で日本人の残酷さを憎んだ。しかし、日本に来て最初の東京での生活が始まった時、交通の便利、きれいなスーパー、サービス業の発達など、人間生活の便利さを追及、それこそ現代文明の効果ではないが、人間の夢ではないか、日本人はしあわせだなと思った。

しかし日本にいる時間が長くなるほど日本人のつらさもわかってきた。居酒屋でアルバイトしていたとき、240席あるおおきな店だったが毎日ほとんど満席だった。サラリーマンのすがたが多かった。混雑していた店には、大笑いの人、大きな声で乾杯する人、ごつごつ（ママ）話す人、悲しい顔をする人、興奮する人、さまざまな日本人をみると、なんだ、日本人はこんなお酒が好きか、これだけじゃなくて、会社の連中が多くて話も自然に仕事に関する話が多かったようだ。仕事に熱心だけじゃなくて、上司の文句や同僚の悪口ばかり、たまに恋人らしいカップルがいたと思ったら話を聞くと不倫カップルだった。これが日本人なのか。イメージとちがってあざんとした。仕事のつらさ、出世競争、恋の重さ、日本人にも日本人なりの人生の悩みがあると気がついた。(略)

V 「異文化接触における自己変容への気づき」と 日本事情教育の役割—まとめにかえて—

以上、「日本人のステレオタイプの変化」をテーマに「異文化接触における自己変容の気づき」という観点に焦点をおいた「日本事情教育」の実践報告をおこなった。

金沢(1992)は、「私たちは物事を理解するためにカテゴリー分けをせざるを得ず、私たちには好悪の感情がある。(略)大切なのはまず第一に、自分にどのようなステレオタイプがあり、どのような偏見があり、自分はどのような差別を行っているのか、これらについての気づきを高める事である。そうして、それらを自分のものとして受け入れることだ。」とのべている。

「自分の中にどのような日本人に対するステレオタイプがあるのか」「それは来日前と来日後ではどの様に変ったか」「どのようにそれらは形成されていったか」ということにつ

いて、客観的にふりかえることは、「異文化接触における自己」の「変容」を客観的にみつめ直すということである。「見られる自己」を、「見る自己」の立場から客観的にみつめることは、「異文化」で学ぶ留学生にとって大切なことであろう。また、アンケート、インタビューや討論をとおして「自己のもつステレオタイプ」を相対化していくことも、「異文化接触における自己」を客観的に考察する上で重要なことと思われる。そしてそのきっかけをつくるために、「日本事情教育」の果たす役割は大きいのではないかと思う。

本稿では「異文化接触における自己変容の気づき」という観点から、「日本事情教育」のひとつのありかたとして、その果たす役割の可能性について論じた。拙稿についてご意見、ご批判をいただければ幸いである。

注

(1) 岩男・萩原(1988)は、過去10年にわたる「留学生の日本人のイメージ」の調査をSD法(Semantic Differential)を用いて行っている。調査によれば、在日留学生の場合、日本での滞在期間が長くなるにつれ、日本社会の閉鎖性をつよく感じ、外国人に対する日本人の態度、偏見や差別といったことに障害を感じやすくなる傾向が現れている、としている(P16)。また、その原因として、萩原(1991)は「実際に日本での滞在経験が深まるにつれて外国人に対する日本社会の根深い閉鎖性、いわゆる「見えない壁」の存在を実感しやすくなるものらしい」と述べている。(P46)

また、川竹(1988)は、主に「マスメディアにみられるイメージ」について日米仏の相互のイメージについての調査を行っている。

参 考 文 献

- 大橋敏子 1991「留学生オリエンテーションの課題」『異文化間教育』第5号
 岩男寿美子, 萩原 滋 1988『日本で学ぶ留学生—社会心理学的分析—』勁草書房
 江淵一公 1991「在日留学生と異文化間教育」『異文化間教育』第5号
 金沢吉展 1992『異文化とつきあうための心理学』誠信書房
 川竹和夫 1988『ニッポンのイメージ—マスメディアの効果—』NHK ブックス
 砂川裕一 1995「『日本事情』教育の複合的機能性」平成7年度日本語教育学会秋季大会予稿集
 同 1996「第三領域としての『日本事情』」『第8回日本語教育連絡会議報告論文集』
 萩原 滋 1991「日本留学に対する在日及び帰国留学生の評価」『異文化間教育』第5号
 長谷川恒雄, 佐々木倫子, 砂川裕一, 細川英雄 1994『外国人留学生のための「日本事情」のありかたについての基礎的調査・研究』(総合研究A 文部省科学研究補助金 研究成果報告書)
 細川英雄 1994『実践「日本事情」入門』大修館
 同 1995「ことば, 文化, 社会を学ぶ—学習者主体の『日本事情』教育の在り方について—」『講座日本語教育』第30分冊 早稲田大学日本語教育研究センター
 宮本律子 1995「秋田地域における留学生と日本人学生の交流の実態及び価値観の比較研究」『秋田大学総合基礎教育研究紀要』第2集
 水谷修, 佐々木瑞枝, 細川英雄, 池田裕編 1995『日本事情ハンドブック』大修館
 鐘 幹一郎 1993「もうひとりの自分とは」『現代のエスプリ』307号 至文堂
 Willam B. Gudykunst&Tsukasa Nishida 1994 Bridging Japanese/North American Difference
 SAGE

(資料1)

1 (くる以前よりよくなった場合)

* 来る前にドラマをみる。礼儀ただし。きてからもっとすばらしい。

* あいさつをする。やさしい面である。

* 心が細かい(察し) * 前は大金持ち、勤勉、おみやげをたくさん買う、団結、中年はスケベ若い女性は綺麗、来た後は働き過ぎてかわいそう * 前:皆同じようにみえる、背が低い、女性は着物、男性は背広をきている 後:若者のイメージがかわる。どんな価値観をもっているのか、わからない。気まま、わがまま、自由自在なことに満足しているのか * 謝りの部分は学ぶべきだと思う。

(くる前より悪くなった場合)

* 女性について、前は優しく、綺麗、ファッションブルだったが、後でオープンすぎ。仕事での地位低い * 前:町が綺麗、会社へは行く時背広やスーツをきておしゃれ、女性は女性らしい、主婦は適職、団結力、部屋がきれい、金持ちでなくても富裕な社会、後:街で啖をはく人がある、ホームレスの人が増え、街がきたなくなった。オープン、若者と4、50代の人がちがう * 前:母国の日本語の先生から、やさしい、まじめ、熱心、礼儀正しい印象、後、少し悪い印象;身分の違う人に対する態度が違う、 * 前:清潔で アクティブ、綺麗な家、親切、笑顔 後:かたつけてきちんとしている家は少ない * 来たばかり:やさしい、後 やさしそうに見えるけど、本音と建て前はしっかりわけている * 前 まじめ、勤勉、頭が硬い。

(他に)

* 背が高く、あいまい。酒好き、煙草をよく吸う、女性も吸う(格好悪い) * 女性は冬でもミニスカート、外観重視、性関係あまり気にしない/男性:真剣さ足りない、学生は遊び好き、競馬好き、忙しい、中年は仕事に忠実、勤勉

* 日本人は本音とか建て前があると聞いたけど、私は感じない。私からみると初めから国という壁があったのは私自身で、なかなかいいこともいわなかった。自分がなにかまちがっていたとおもった。

* くる前:日本の伝統てきなことは一番印象がある。日本の名物は、綺麗なものとか厳しい武士とかおいしい日本料理、刺身、味噌汁、日本酒、富士山など(日本の歴史に関する台湾の歴史番組から) * きたばかりの頃は皆親切、元気がなくて静か、今はやせていて、侍時代のような印象がなくなった。電車の中で本をよんでいる * 日本人ははたらきもの

2 1のような印象は、どんな経験から形成されたと思いますか。(例 母国のTV、Y友人の話)

<母国>

* 母国のTV、日本によくいった父の話から * TVや本で日本人のまじめさや伝統を大切にすることなどがおしえられた。 * マスコミなどでよくないところが多かった。 * 兄、叔父さん、叔母さんたちの話、また、スリランカをたずねて来た日本人の知り合いの人達から * マレーシアやシンガポールのTV番組では、よく日本のドラマがでていいる。ちょっとへんな日本人もそのTV番組にでてきた。日本語学校のなかで。 * 日本にいる友達からきいた話、新聞、雑誌、本でよんだこと * 日本のドラマ(東京ラブストーリー)雑誌(NONNON, JOY)漫画(どらえもん)など * 母国でつとめていたホテルに来た日本人観光客 * 母国のTV、映画から * 台湾の歴史番組 * TVドラマ(香港での日本のドラマは、愛情のストーリーが多い)

<日本で>

* バイト先で(勤勉) * はじめてパートを探して道に迷った時、日本人に会って熱心につれていかれました。ありがたかった。日本人とのつきあいが深くなるにつれ、心の細やかさをかんじるようになる * まわりの人たちと友達になってみれば、いい人、だが全体てきにはまだ日本人だっ

た。*来たばかりのころ：「いらっしゃいませ」という店員の声，道に迷っている時，たずねると丁寧に教えてくれた人など 1年後：日本語が段々わかってくる。日本の社会を認識しつつある。TVで色情の番組，歌舞伎町での男性の遊ぶ店，雑誌とか色情の本がいっぱい，話題も異性のことなど，2年後：日本人と接触する機会が増える。日本人は口がうまい。実際は全然違う。

*自分の目でみた日本人に対する印象，ドラマの中など *女性に対する印象は，雑誌，TVの放送，まわりの友達から 男性について競馬にいったときの印象，*友人の話

アルバイトで

(資料2)

結婚と仕事についてのアンケート結果

1位3，2位2，3位1ポイント

A結婚相手の条件について

<女性にもとめているもの>

留学生 (男性のみ)		日本人男性の回答予想(留学生全員)		日本人 (男性のみ)	
1位	優しい 10	1位	きれいな 11	1位	価値観同じ 4
2	かわいい 6	2	やさしい 8	2	心 3
3	良い性格 5		かわいい		顔
4	頭いい 4	3	仕事 5		気があう
	愛 4		学歴		やさしい
5	同じ興味 3	4	愛 4		性格
	知識		細長い		信頼してくれる
	安らぎ	5	魅力的 3		助けてくれる
	女らしさ		顔		美しい
	細長い		セクシー	3	お金持ち 2
	話題あう	6	出身 2	4	家庭 1
	信頼		家庭		
6	美しい 2	7	家事 1		
	健康		料理		
	信じてくれる		大卒		
	化粧なし		家柄		
	同じ心		外見		
	家庭		知識		
7	大切に思う 1		性格		
	賢い				
	礼儀				
	背の高さ				
	親切 (他の人に)				
	純情				

<男性にもとめているもの>

留学生 (女性のみ)		(留学生全員による) 日本人女性の回答予想		日本人 (女性のみ)	
1位	やさしい 9	1位	金持ち 30	1位	気があう 7
2	仕事 4	2	学歴 8	2	性格一致 6

3	性格 親切 信頼できる ユーモア 誠実 努力	3	3	長身 男尊女卑でない 仕事 優しい かっこいい ハンサム	3 6 4 5	4	4	3	お金 自分が好きな人 能力 ハンサム 誠実 家事を分担して くれる 他人の痛みがわかる 健康	3 2 1 1
4	理解しあえる 学歴	2	4	才能 愛 煙草すわない 家庭的 車	2 6	7	1	1		
5	能力 寛大 頼れる 成熟 家族	1	7	責任 仕事ばかりでない	1					
仕事を選ぶ条件										
留学生の回答			日本人の回答予想 (留学生による)				日本人の回答			
1位	給料	24	1位	給料	40	1位	給料	16		
2	興味に合う (好き)	13	2	安定性	8	2	興味ある やりがい	9		
3	能力発揮	7	3	楽	6	3	能力発揮 将来性	4		
4	自分に合う (適性)	6	4	人間関係	5	4	楽 自分にあう 居心地よさ 社風 雰囲気	3		
5	やりがい やりたいこと 責任	5	5	興味ある	4	5	いつも同じ事しない 上司ができる人 気をつかわない 休日多い 人間関係	2		
6	将来性 人間関係 便利 仕事の内容 休み 楽しい 持続性 有名会社 仕事内容	4	6	時間どおり	3	6	労働条件 東京 人の役にたつ	1		
8	自由	2	7	昇進 自由 楽しい 適性 福祉 やりたい	2	8				
9	面白さ 昇進 社会性 福祉 環境 成功できる	1	8	便利 保障 将来性 労働時間 仕事の内容 休み 責任 有名会社 大きい会社 持続性 会社の状況 性格に合う	1					

(1995年11月29日 受理)